

# 研究成果報告書

## 1. 研究概要

### ・研究テーマ

一人一人の個に応じた学びを支える「緩やかな協働性」の創り手となる児童の育成とカリキュラムデザインの研究

### ・研究概要

名古屋市では、実証研究協力校において、週に5～10時間程度、児童が「いつ学ぶか」「何を学ぶか」「どこで学ぶか」「どのように学ぶか」を自分で選択する複数教科同時進行型の自由進度学習に取り組んでいる。

自由進度学習は、緩やかな協働性を基盤としつつ、学習者一人一人の学びにおける自己決定の機会を最大化する。より具体的には、誰もが、必要な時に、必要な仲間と協力できるという安心感を土台にしつつ、自分の興味関心や得意を生かした、また、苦手を補うような学びの内容や方法が許容されるということであり、これは、結果として、特異な才能のある子どもたちを含む全ての児童生徒への包摂性を高めることになる。

自由進度学習では子どもたちが互いに高め合い補い合いながら自立解決型の学びを進めていくのであり、学びの基盤である、全ての子どもが互いに尊重され、誰もが、必要な時に、必要な仲間と協力できる「緩やかな協働性」が、最も重要な要因であると考え。そこで本研究では、子どもたちが自律した学び手となるために、子どもたち自身が「緩やかな協働性」の創り手となることを目指し、実証研究協力校において取り組むイエナプラン教育の活動（対話、遊び等）やプロジェクトアドベンチャーを参考とした学級づくりの実践の更なる改善・充実を進めるとともに、カリキュラムデザインとして、児童の積み重ねた経験や学級の状況との関係における自由進度学習の進め方や、学級づくりの実践をカリキュラム上において整理することに取り組むものである。

## 2. 研究内容

### (1) 研究課題

#### (研究領域1) 学校内での取組に関すること

- a 単元内自由進度学習や異年齢集団による学習、理解の状況に応じた課題の設定など、特異な才能のある児童生徒をはじめ子供の関心等に合った授業や学習活動の在り方
- b 特異な才能のある児童生徒を含む全ての子どもたちが互いに尊重される授業や学級経営の在り方など、多様性を包摂する学校教育環境の在り方
- c 児童生徒が普段過ごす教室や学校内の他の教室等、指導・支援に取り組むための多様な学びの場の設定や連携の在り方や、過ごしやすい居場所としての環境整備・人的サポート等の在り方
- d 特性等を把握するためのサポートを受けながら行う特異な才能のある児童生徒への指導・支援の在り方
- e 才能と障害を併せ有する児童生徒への対応の在り方

## （研究領域2）学校と学校外との連携に関すること

- f 学習面・生活面にわたる学校と学校外との機関との連携による指導・支援の方法
- g 特異な才能のある児童生徒に支援を提供するための学校外の機関の在り方や、その機関と連携して学習を行う際の学習状況の把握や学習評価の在り方
- h 才能と障害を併せ有する児童生徒への対応

## （研究領域3）児童生徒を取り巻く環境の整備に関すること

- i 教職員への研修の在り方や、保護者、地域社会の理解の醸成の在り方
- j 各主体が保有する情報集約や、主体間の情報連携・共有の在り方
- k 児童生徒の機微な情報の共有の在り方、進学時の情報の引き継ぎなど学校段階間の連携の在り方

## （2）研究における取組

### <内容>

#### ア 学級づくりの実践

学級づくりの実践は学校全体で取り組んだが、実証研究の対象は低学年（3年生）及び高学年（4年生）における代表学級（計2学級）とし、年間を通じた実践事例の蓄積・整理を行うとともに、当該学級と数名の抽出児童の学び方等の変容等について観察・記録を行った。

#### イ 教職員に対する研修

教職員の資質・能力の向上と学級づくりの実践の改善・充実に向け、以下の視察研修及び校内研修を実施した。

### 【視察研修】

区分	時期	視察先
1	6月	大日向小学校
2	9月	大日向小学校

### 【校内研修】

区分	時期	内容	講師
1	4月	複数教科同時進行型自由進度学習の進め方、考え方	名古屋市教育委員会事務局 指導主事 岩本歩
2	4月	クラス会議による心理的に安全なコミュニティづくり	愛知教育大学 非常勤講師 深見太一氏
3	5月	アドベンチャープログラムの理念	愛知教育大学 非常勤講師 深見太一氏 名古屋市教育委員会事務局 指導主事 岩本歩
4	10月	アドベンチャープログラムの実践（模擬授業及び体験研修）	軽井沢風越学園 副校長 甲斐崎博史氏

5	11月	子どもたちの学びの多様性	一般社団法人子ども・青少年育成支援協会 代表理事 村中直人氏
---	-----	--------------	-----------------------------------

#### ウ 効果検証

代表学級の学級全体及び抽出児童について、アンケートにより効果検証を行った。児童の変容に係る効果検証に関しては、(一社)School Transformation Networking代表理事の山口氏へ依頼し、測定指標を設定した。

#### エ 運営指導委員会

研究への指導・助言をいただくため、運営指導委員会を3回開催した。

##### 【運営指導委員会の構成】

区分	氏名	所属・役職等
1	苫野 一徳	熊本大学教育学部准教授
2	山口 裕也	(一社) School Transformation Networking代表理事
3	久保 礼子	学校法人茂来学園大日向小学校校長
4	青山 光一	学校法人茂来学園大日向小学校教頭
5	岩本 歩	名古屋市教育委員会事務局新しい学校づくり推進室指導主事

#### <経過>

月	取組内容			
4月	学級づくりの実践事例の蓄積・整理	校内研修①・②		
5月		校内研修③	測定指標設定	
6月		視察研修①	アンケート①	
7月				運営指導委員会①
8月				
9月		視察研修②		
10月		校内研修④		
11月		校内研修⑤		
12月				運営指導委員会②
1月			アンケート②	
2月				運営指導委員会③
3月			研究主任ヒアリング	

### 3. 実証研究の成果や課題

#### <成果>

イエナプラン教育の活動（対話、遊び等）やプロジェクトアドベンチャーを参考とした学級づくりの実践を、改善・充実しながら取り組んできたことで、子どもたち自身が学級内において「緩やかな協働性」を創ることができるようになってきた。

児童質問紙<sup>※1</sup>においては「個性化した学習」<sup>※2</sup>「内発的な協同」<sup>※3</sup>をはじめ、全国的な平均値に比べ高い数値で子どもたち自身が自己評価しており、かつ、代表学級以外についても同様の成果が表れていることから、実践校の積み上げてきた取り組みが学校文化として根付きつつあることを示している。

#### <課題>

児童質問紙における「本物の学び」※<sup>4</sup>として「状況に埋め込まれた学習」※<sup>5</sup>「自己決定に貫かれた学習」※<sup>6</sup>の結果について今後の課題としてとらえている。カリキュラムデザインとして、児童の積み重ねた経験や学級の状況との関係における自由進度学習の進め方や学級づくりの実践を、カリキュラム上において整理する必要がある。

※1 児童質問紙：一般社団法人 School Transformation Networking と名古屋市立教育委員会が「主体的・対話的で深い学びの実現状況を測定・評価する」ことを趣旨に共同開発した、児童生徒による自己評価型の質問紙。本質問紙は、同法人が提供及び管理する「ScTN 質問紙（主体的・対話的で深い学びのための意識・実態調査質問紙）」と同趣旨のものであるとともに、本市ナゴヤ・スクール・イノベーションにおけるマッチングプロジェクト事業の効果検証を主目的として開発された。

本年度の結果は別添資料「特定分野に特異な才能のある児童生徒に対する支援の推進事業 令和5年度効果検証」参照

※2 個性化した学習：児童質問紙において、観点「個別の学び」内の一つとして「授業では、学習を進める方法やペースを自分で決めながら学んでいる」と調査を実施している。

※3 内発的な協同：児童質問紙において、観点「協同の学び」内の一つとして、「授業では、自分が必要なときに、必要な仲間と協力しながら学んでいる」と調査を実施している。

※4 本物の学び：児童質問紙における学習経験領域の観点の一つ。「状況に埋め込まれた学習」と「自己決定に貫かれた学習」の二つの評価規準から構成。

※5 状況に埋め込まれた学習：児童質問紙において、観点「本物の学び」内の一つとして、「授業では、普段の生活のことや、社会で問題・話題になっていることを材料に学んでいる」と調査を実施している。

※6 自己決定に貫かれた学習：児童質問紙において、観点「本物の学び」内の一つとして、「授業では、『授業を進めるのは、先生ではなくて、自分だ』と思いながら学んでいる」と調査を実施している。

## 担 当 者 名 簿

## 1. 教育委員会等

①名 称	名古屋市教育委員会
②住 所	〒461-0001 名古屋市東区泉一丁目1-4 名古屋市教育館8階
③連 絡 先	電話(直通) 052-253-7937 E-mail(個人) r.yamaguchi.01@city.nagoya.lg.jp E-mail(所属) a2537937@kyoiku.city.nagoya.lg.jp
④担 当 者	氏 名 <small>やまぐち りょうすけ</small> 山口 凌右 所属・職名 新しい学校づくり推進室・学びの改革推進係長